

## 第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

### 1. 医学部基幹整備(冷熱源設備他改修)工事に伴う立会調査

**調査地区** 小串構内エネルギーセンター西側空地

**調査面積** 約37㎡

**調査期間** 平成18年1月6日

**調査担当** 横山成己

**調査結果** 小串構内西部に位置するエネルギーセンターにおいて、冷熱源設備等の改修工事が計画された。工事計画の内、地下の掘削を伴う工事は氷蓄熱槽設置のための基礎工事であり、最深部で約0.78mの掘削を必要とするものであった。そのため、埋蔵文化財保護の見地から工事中の立会調査を実施した。調査の結果、掘削は造成土内に収まることが判明し、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

調査地点周辺における埋蔵文化財の遺存状況を見ると、北方に近接する地点の調査において古代から近世<sup>註1</sup>にかけての遺物を包含する堆積層が確認されている一方、南方に近接する地点の調査においては埋蔵文化財は確認されていない<sup>註2</sup>。平成15年度に今回の調査地点の西側隣接地で実施した試掘調査では、海成砂層<sup>註3</sup>から極少数ではあるが土師器片が出土している。

これらの遺物の分布域を見ると、小串構内の北方に展開する丘陵部からの流入が想定され、本調査地点周辺がその広がり<sup>註1</sup>の末端部にあたることが推測される。小串構内は、現在こそ南方の海岸線から乖離しているものの、標高3mの低地部に立地している。なおかつ、北方背後には丘陵部が迫っていることもあり、地下の状況は複雑な様相を示す。掘削を伴う工事計画等に対しては、今後とも慎重な対応が必要不可欠である。

[註]

- 1) 森田孝一(1986)「第4章 宇部(小串構内)医学部基幹整備に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』, 山口
- 2) 森田孝一(1986)「第5章 宇部(小串構内)医学部臨床講義棟・病理解剖棟新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』, 山口
- 3) 横山成己(2005)「第1章第4節 基幹・環境整備(煙突)新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』, 山口



図 37 調査区位置図



写真 51 調査区土層断面 (南から)

## 2. 医学部南側通用門塀取設工事に伴う立会調査



図 38 調査区位置図

**調査地区** 小串構内南側通用門

**調査面積** 約30m<sup>2</sup>

**調査期間** 平成18年4月21日

**調査担当** 横山成己

**調査結果** 小串構内の南通用門の整備計画が立案されたことを受け、開発担当部局と工事計画について綿密な協議を行った。開発計画の内、新たに門塀を設置する箇所は現地表から約0.65mの掘削が必要であることが判明したため、当該箇所について立会調査を実施することとなった。

立会調査の結果、掘削は大学建設時の造成土内に止まることが確認され、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

調査地周辺は当館による埋蔵文化財調査が密に行われている地点とは言い難く、遺構及び遺物の埋存を推定する状況にない。ただし、本調査地の西方向約100m地点で昭和58年に実施した医学部図書館新築に伴う立会調査<sup>註1</sup>及び本調査地の北東方向約100m地点で平成2年に実施した医学部附属病院動物・RI実験棟新営に伴う試掘調査<sup>註2</sup>、隣接する地点において平成5年に実施した医学部臨床実験施設新営その他工事<sup>註3</sup>に伴う立会調査では、造成土下に遺存する堆積層を確認しているものの、遺構、遺物共に顕著な埋蔵文化財は確認されていない。現状では本調査地を含む小串構内南部に埋蔵文化財が存在する可能性は低いものと想像される。

[註]

- 1) 森田孝一(1985)「第9章第2節 医学部図書館新築に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』, 山口
- 2) 河村吉行(1992)「第4章 小串構内医学部附属病院・RI実験棟新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』, 山口
- 3) 豆谷和之(1995)「第4章第2節 医学部臨床実験施設新営その他工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅢ』



写真 52 西側調査区土層断面 (南西から)



写真 53 東側調査区土層断面 (南西から)